

NO. 5

1993. 9



立木薬師如来 200年前(1797)に立木に木喰上人によって彫り込まれた薬師如来で、現在も生きている。山口県阿武郡福栄村の願行寺の境内にある。(10ページ)

も く じ

〈NETWORK・ネットワーク〉

2. 九州に弥生時代はなかった — やぶにらみ九州論 その1 —
3. ワークショップ手法の実践と自由研修

〈見・聞・食〉

7. 緑にたたずむ黒く深き孤風院にて
8. 風倒木を見て山を想う
9. 特産品クローズアップ ① — いわしの味噌煮(床漬煮) —

〈近況〉

10. 不思議なあたたかさをもつ微笑仏
12. 活気あるバスターミナルの事例報告
13. 小規模炭住地区改良事業による炭住地区整備

〈本・BOOKS〉

15. UEC(知られざる優秀企業)を訪ねて

いるのが当然であると思う。アジア大陸と日本は違うし、アメリカ大陸ともヨーロッパ大陸とも中東の文明の源流地域とも違う。同じ日本の中でも九州と関東は違っているのだから、時代区分も違えるべきであるし歴史の記述も違えるべきなのである。

九州の土地に根ざした素人的な素直な歴史観で、吉野ヶ里のテーマを考えると「瑞穂の国で黄金の穂波がゆれた」とか「稲の豊作を祝う歌声が流れる」とか「豊作を祝う踊りの輪が広がる」などではなかろうか。吉野ヶ里に人々が集まっていた頃、弥生町で土器もつくられていなかったし、稲作も伝わっていなかったと思う。同時期の風景を想像してみるとあまりにも違いすぎる。

この時代の九州の人々は、稲作革命の先導者として厳しい自然の中にあっても、以前の縄文時代と比べると、うきうきしながら、忙しく立ち働いていたに違いない。この勢いが稲作を猛スピードで全国へ広める原動力になったものと考えられる。

結論をいうと、歴史などというものは地域によって違いがあつて当然だし、違いがないのなら存在意義がないこととなる。日本の新しい時代を切り開いた吉野ヶ里を語るのに、今さら“弥生”でもあるまいと思う。もっと九州の土地柄と合ったキャッチフレーズがあつてもいいのではないか。九州を主語としてローカルでインターナショナルとつながる歴史を語ってほしいものである。

(糸乗 貞喜)

ワークショップ手法の実践と自由研修 ～アルバック全社研修会に参加して

1. '93アルバック全社研修会

〈ワークショップ!?〉

“ワークショップ”という文字を始めて目にしたのはアルバックの全社研修会が始まる少し前のこと。大量の資料と共にワークショップの理念・手法に関する論文が大阪事務所の方から送られてきた。「全社研修会のテーマはワークショップです」と大々的に書いてある。

手引書を参考にワークショップ(以下WS)を簡単に要約すれば、次のようになる。

「住民参加型の地域づくりの新しい手法であり、ある場所や施設に対する現状のイメージをもとに自分で計画のコンセプトを立て、施設の模型造りまで行う。最終的には、設計士・デザイナーを交えて模型と原寸台の計画を見比べながら修正等を加え、より



ワークショップって工作のこと?

現実性の高いものにする」

私自身、WSの手法に関する手引書を見ても何か腑に落ちないまま、全社研修会に参加させていただくことになり、7月16日滋賀県長浜市に向かった。

我社からは3人が参加した。

〈毎年恒例の全社研修会と今年のテーマ〉

全社研修会はアルパックの全事務所が年に1度集い、交歓を深める恒例行事。会場である琵琶湖湖畔の長浜ロイヤルホテルには各事務所からアルパックの面々が集まった。その数総勢70余名。

午前10:30に開会式が始まり、続いて伊藤雅春氏(大久手計画工房)が講演。テーマは「WSによるまちづくり」だった。WSの実例を挙げ、世田谷区における児童公園と名古屋市内の福祉施設に関するWS手法の実践について、スライドによる解説を交えながら講演された。

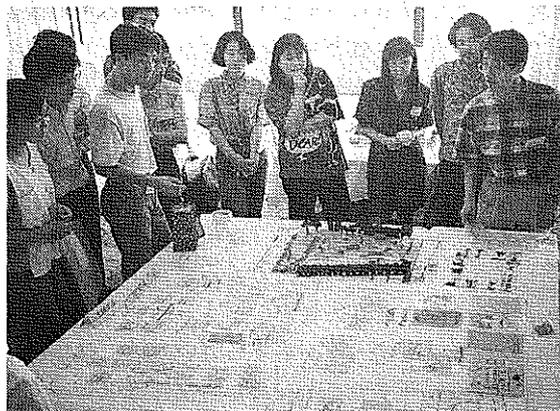
講演が終わると、各班に分かれて、各人の簡単な自己紹介。そして昼食の時間。

実は、この昼食行は長浜市内で「うまい店」を見つけると同時に、各班に割り当てられた地区(我々は北国街道公園の辺り)に公園を作るという想定のもと、現況の周辺地区のいいところ・悪いところを見つけるというWSの時間でもあった。

〈コンセプトを色画用紙で模型に〉

2時間後、ホテルではコンセプトの模型化の作業が進行していた。昼食時に収集した割り当て地区の現況の分析をもとに「ここに公園を作るならどのような公園が適切か」検討し、班ごとのコンセプトを決定。

平面の色画用紙で、CMの「この木なんの木気になる木」のような重量感のある木を作ろうとする人や、必要な色画用紙を使い過ぎてしまい、スポーツ新聞



グループごとにWSの成果を発表

を刻んで器用に小屋をこしらえている人など、さすがアルパック、と唸りくなる一面もあった。模型作り終了後、グループごとにお互いコンセプトを発表しながら模型を披露。終始、笑いを誘うようなおかしげなコンセプトを考えついた班や、他班を「うーむ」と唸らせるくらい素晴らしいことを言っている班もあって、発表会全体が明るく楽しい場になっていた。

その雰囲気は夜のパーティーにも持ち越され、明け方まで杯を傾けていた人もいたようだった。

〈WSをおえて〉

今回のWSは時間にして4時間前後、非常に短いものだった。その中で思ったことがある。

それは、WSとまではいなくても、WSに近い住民参加型地域作りの手法の需要が、日本でも生まれてくるだろうということである。とくに、福祉施設の設置や環境アセス等の分野で需要が増してくるのではないかと思う。

2. 自由研修～長浜、大阪見学

研修会解散後、所員はそれぞれ自由研修というかたちで長浜市内見学へくり出した。

〈雨の北国街道と黒壁～表参道〉

長浜は古くから町として発達し、1574年には秀吉が長浜城を築き、出世の足がかりとしたところでもある。またその頃から楽市楽座が設けられるなど、商業の町として、そして湖北の中心都市として発展してきた歴史を持つ。

あいにくの雨の中、何となく若い者同士でかたまって北国街道を歩いた。街道は古いまちなみが残され、新しい建物でもRC造の物は縦長のスリットの窓にしていたり、木造の店舗では格子のアルミサッシが使われてあったりと、落ちついた雰囲気を守られていた。でもアルミサッシは近づいてみるとやはり少し変で、木製の格子戸の方がかっこいいのに、と思った。

通りには土産屋、焼物屋、ギャラリーなど観光客目当ての店もちろんあったが、乾物屋、模型屋など生活のにおいのする店も並んでいた。

長浜市の「博物館都市構想」の一環となる「黒壁ガラススクエア」は特に建築物の壁を黒く統一することで独特の雰囲気を出していた。黒壁ガラス館ではグラスや皿などのガラス製品やアクセサリなどのガラス細工がずらりと並べられてあり、若い女性を中心に受けそうな感じだった。その別館では吹きガラス職人のガラス製作見学やガラス工芸教室も行われていた。ところで長浜は昔からガラスで栄えたというわけではないらしいのだが、旧百三十銀行という時間の流れを経過した建築物におさめられて、まちに溶け込んでいた。

大通寺の表参道には、寺に昔から住んでいたと言



橋桁になった「お花はん」

われるキツネの「お花はん」が、モニュメントになっていたり橋桁になっていた。言い伝えがひとつのシンボルキャラクターとして存在するのは、来訪者が見てもあまり違和感を感じる事がなく、とてもなじめた。

雨降りは残念だったが、このような落ち着いた街並では、しっとり濡れている方がより情緒的に見えて良かったかも知れない。

〈梅田スカイビル～目指セバベルの塔!!〉

せっかくの関西。九州に帰って物知りを決め込むべく、帰途我々は途中下車し「梅田スカイビル」「大阪ビジネスパーク (OBP)」へとむかった。

梅田スカイビルは大阪駅の東、徒歩10分の距離にある「新梅田シティ」の中心をなす連結超高層ビル。今年7月にオープンした。新梅田シティは、JR操車場移転計画に伴う、大阪北側再開発の起爆材として期待されている。

この見所は、何とんでも空中庭園。高さ173mから見おろす展望台の特徴は、そこが二つのビルに



ひときわ目立つ連結超高層

支えられた「空中」であり、かつ「屋外」という点だろう。ガラス張りの空間からは決して味わえない、風を感じながらの大阪の眺望は、印象深いものがある。ガラスの使用によって足元が見渡せる35Fから39Fまでの長い長い「空中エレベーター」も面白い。

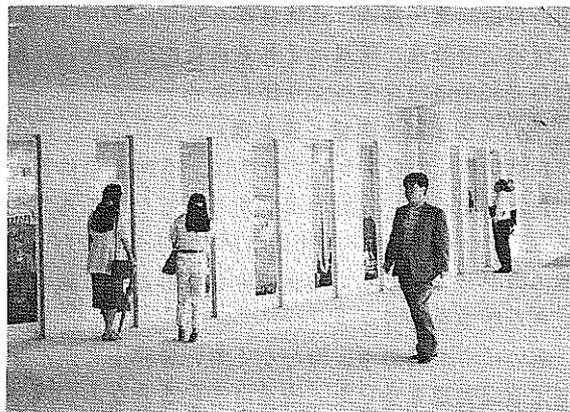
また40階展示スペースには、東京大学の原広司研究室、アトリエ・ファイ建築研究所により、バベルの塔など、古代から人類が空へと夢を馳せた足跡が展示され、それが設計者原広司氏の空中庭園のコンセプトとつながっている。

〈OAP、OBP次はOCP?〉

JR京橋駅を降りると、屋根付きの陸橋が延々と続いている。これがOBP（大阪ビジネスパーク）への入り口である。

徒歩5分、寝屋川を渡ると、右手にはOBPのランドマークの一つにもなっている、ツイン21が見える。すれ違うのは若者の姿が多い。

ここツイン21にも38階に展望台がある。大阪人は



梅田スカイビル40階には古代からの空中庭園幻想が展示

高いところが好きなようだ。

このビルは複合商業・業務施設といったところ。ショッピングゾーンやグルメゾーンなどの施設、子供から大人まで幅広い年齢層を対象としたアミューズメントスポット（パナソニックスクエア）があり、賑わいの場として十分な魅力を備えている。1Fには吹き抜けのイベント空間もある（この日もJリーグのスター選手をメインに献血キャンペーンが行われていた）。博多の人にはIMS（イムズ）を大きくしたもの、といえれば説明がつくだろうか。

OBPにはその他にも住友生命OBPプラザビルなどの高層ビル群が建ち並び、事務所と共に企業のショールーム、ラボ（研究室）がひしめく。これらは高度なビジネス空間を形成している。

なお大阪にはOAP（大阪アメニティパーク）もあるらしい。OCP、ODP、と関西独特の遊び心で続いていくのだろうか。

（尾崎 正利・伊藤 聡・北村 茂樹）

緑にたたずむ黒く深き孤風院にて

時折肌寒い5月の終わりの雨の午後、私は友人と阿蘇に向かっていった。豊肥本線市ノ川駅の近くのわき道を山の方へ曲がり、伸び始めた雑草の間の細い道をすりぬけると、濡れた木々の陰からどっしりとした黒い壁が見え、窓が見え、屋根が見えてきた。運転席にいる友人に「あれ？」と聞くと「そう」と答えた。それが故木島安史先生（元熊本大学工学部教授）の自邸「孤風院」であった。話には聞いてあったし、書物でも見たことはあったのだが、実物に接するのはこれがはじめてで、とにかく考えていたよりもずいぶんきれいだと思った。『意外ときれいでしょ』と言って、ちょっと上向きに軽くニッと笑うひげと眼鏡の木島先生の顔が浮かんだ。

〈まだこれから、だった〉

木島先生が亡くなられたのは今年の春。その前日に、ロック歌手の尾崎豊が若くして死んだニュースが流れ、まわりの人が話しているのもそのことだと思っていたので、先生のことだと聞いたときにはずいぶん驚いた。

木島先生は、'71に熊本大学に赴任。教鞭をふるいながら地方だからできる建築を思い描き、'86に球磨村の「球泉洞森林館」で日本建築学会賞を授賞。また九州北部学術研究都市構想の指導に尽力されるなど幅広い活躍をし、今後益々期待される建築家であった。

〈講堂を住宅に〉

「孤風院」は住宅にしてはかなり大きい。元々は旧熊本高等工業学校（現熊本大学工学部）の講堂だったのである。その講堂が昭和50年に解体されることになったとき、保存を熱望した木島先生が自邸とし



あやしげな屋敷にも見える(?) 孤風院

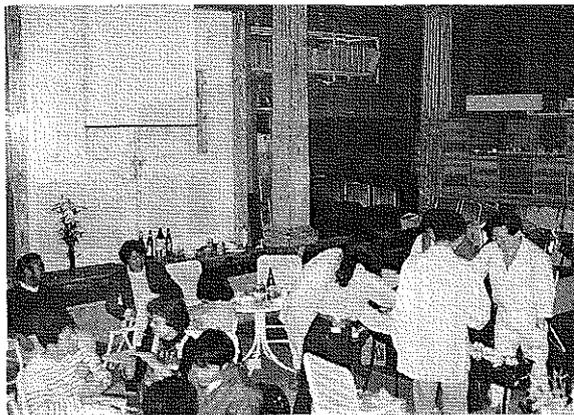
て引き取り、阿蘇の地に移築した。ただ、そのままでは広すぎるため、柱間を8スパンから5スパンに縮めて多少コンパクトにはされてある。

内部空間は柱の装飾も舞台も残されていたが、外観とは違って塗装は剥がれ落ち、壁も一部はベニヤのまま、あまりきれいにしているとは言えなかった。塗装などは自分であるいは学生を使って少しずつ進めていたらしいが、同時に老朽も進み、ある人からは「完成が先か、破壊が先か」という風にも言われていたと聞く。正直、半分壊れてるように思えた。

〈屋内バーベキューとスライド上映〉

孤風院の中ではバーベキューパーティーが始まっていた。木島先生の遺志を継ごうと発足した「孤風院の会」の集いである。天気が良ければ草むしりの後に外で行うはずだったが、雨のため屋内となった。屋内といっても元は講堂である広間は、30人位でバーベキューをやっても十分な空間だった。

人が集まったときの賑やかさはなかなかいいが、逆に誰もいなくなったときの寂しさも想像に難くない。



広間ではバーベキューパーティーが…

その広さと、周囲の静けさと、不気味さ(?)に囲まれて、単身赴任だった木島先生はひとりでここに寝泊まりしていたのだ。「孤風院」という名称から受ける寂しげな印象(先生は他の意味も含ませていたらしいが)もうなずける。

それぞれがくつろぎながら談笑している間に、壁のような白い大きな扉をスクリーンとして、木島先生の作品の数々がスライドで映し出された。誰も何も説明しない。みんな良く知っているからだ。押しつけがましく見せるでもなく、BGMとともに静かにながれる映像は、それでもいつしか会場にいるほとんどの人の目を引きつけていた。(伊藤 聡)

孤風院について、木島先生本人の書かれた本が出ています。孤風院移築の過程や生活ぶりなどが豊富な写真と共に描かれています。

「孤風院」白書 木島安史著

住まいの図書館出版局

風倒木を見て山を想う

今年の梅雨は週末に限って大雨が降り、いつも遊びの予定が狂ってしまった。そんな6月中旬のある日、友人と松原・下笠の両ダムに行くこととなった。

〈新聞でみた福岡市の水瓶の惨劇〉

同行人は、大学時代に雑木林の保水性を研究していたAさん(30才)。彼の木についてのウンチクは一聴に値する。私は数日前の新聞で両ダムの様子を見ていた。一昨年台風による杉・檜の倒木が、最近の長雨で山から川へと流れ、ダムを埋め尽くすに至り、木の所有者が放置したままなので回収が遅々としている、ということが書いてあった。

私は、実際にその様子を見たかった。そして、上流部の荒れた山の様子も見たい。松原ダムという福岡市の水瓶ではないか。水資源に関する知識が欲しい私は、Aさんと大分県天瀬町に行ってみた。

〈見渡す湖面は木の墓場に〉

行って驚いた。本当に流木がダムの水面を埋め尽くしているのだ。ダムの周りは立入禁止である。Aさんは「ほとんど杉の木だね」といって、カメラのシャッターを切った。

ほとんどが直径30cmほどの若い木である。無理矢理ねじられ、裂かれて、押し倒された「死体」であった。回収された木を触ってみると柔く、腐っていた。紛れもない木の墓場だった。水面で木が擦れ合う音は木の嗚咽のような感じだった。

〈単一植樹の功罪と森林育成の転換期〉

ダムを後にして、上流の山を見に行ったら。近づくと、山の痛み具合が目立ってきた。Aさんは、

「山の自然な植生を無視し、単一植樹を行った結果、山の保水性が弱まった」と説明した。「以前のように林業で生計を立て、山に手を入れてくれる人がいるのなら、山も保水性を保てたはず」とも続けた。

日本の人工林は国土保全と共に商用材の確保を目指して戦後すぐにスタートした。しかし、林業の衰退と後継者不足で山は荒れた。誰も手をいれない山は、もっと荒れていく。これは先進国に多く見られることで、アメリカのミシシッピー流域で発生した

大洪水は「上流域の単一植樹による土壌の保水力低下が原因」(Aさん)という。荒れた山を見て、ダムの木々の墓場を思い出し、もっと質的に国土保全に適した山を作っていく必要があると思った。現に、この数年はずっと季節的に大雨が降るうえに、台風もいやに大型で九州を直撃するのが増えてきたので、対異常気象を考えた国土保全・治水を検討する必要があると思った。

(尾崎 正利)

特産品クローズアップ ①

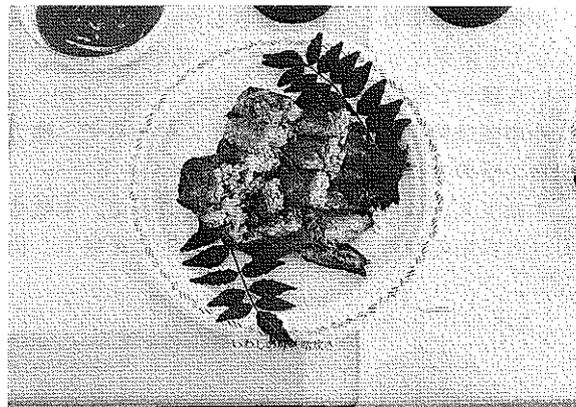
— いわしの味噌煮 (床漬煮) —

私がぬか味噌煮を初めて口にしたのはかなり前のことで、代々受け継がれたぬか床が自慢の定食屋でした。酒・醤油・砂糖等で普通に炊いた後、仕上げにぬか味噌漬けのぬか床を使うと聞いて驚いたのを覚えています。

しかし、これがわが福岡県の北九州市小倉に古くから伝わる家庭料理と知ったのは、恥ずかしいことですがごく最近のことです。その昔、小倉藩の御殿女中が作っていたものが庶民にも広がったというから、ずいぶん昔から小倉の人々に親しまれてきた料理のようです。

味の方は、ぬか床の風味がいわしの生臭さを消し、ぬか床に使っている山椒・唐辛子等の隠し味が引き立て、青魚が苦手という人にもこれはおすすめできます。

小倉市内ではデパートでも購入できるそうですが、福岡市内で販売しているところは見つからず、今回



は小倉の店から取り寄せました。

(富重 慶子)

このコーナーは今号より連載します。6月に行った10周年記念パーティー(前号で紹介)で集められた特産品を中心に紹介していきたいと思えます。掲載のリクエストがありましたらお寄せ下さい。

不思議なあたたかさをもつ微笑仏

私をはじめ木喰仏に出会ったのは昭和50年で、丹波の国八木町の清源寺においてである。そのとき不思議なあたたかさをもった木喰仏の表情と住職の話は、今でも耳に残っている。

「そりゃまあ、棟方志功が木喰上人の仏さまを見るとね、飛びつくようにして抱きついての、涙をポロポロこぼしながら、オイオイ泣いての、これにはびっくりしての」と住職はいつていた。

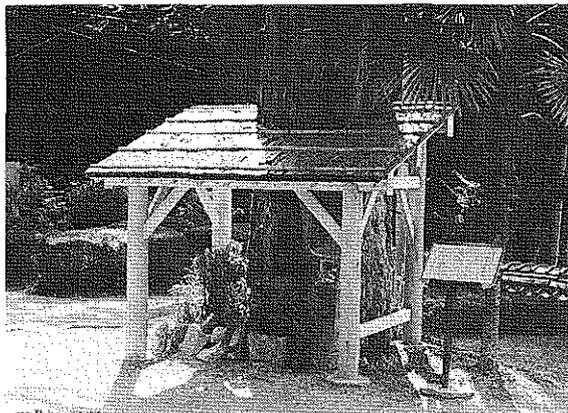
住職の話によると「柳宗悦さんが、河井寛次郎さんなどと来やはって、この仏さんを見て大変驚き、いろいろ調べて帰らはった」ということであったが、私はその頃は柳宗悦についてはほとんど知らず、棟方志功の話の方に気をとられていた。

木喰上人とは木喰戒を行った人のことで、木喰戒とは真言宗の行の一種で、百日間、五穀を断ち、肉



(左) 釈迦如来像。千体目の木喰仏とされている。
(丹波八木町清源寺)

(右) 大日如来座像。(宮崎県西都市の国分寺)

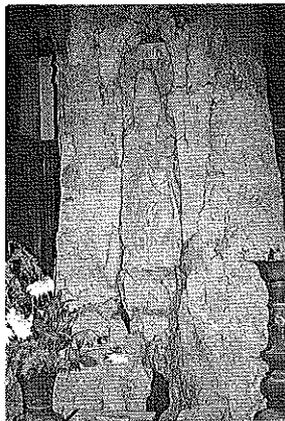


願行寺境内の権の立木薬師 (山口県福栄村)

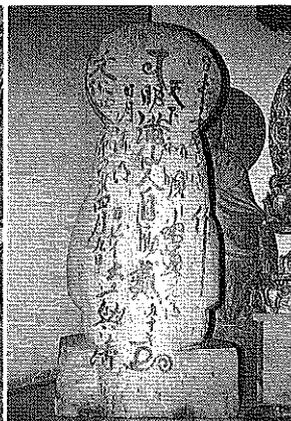
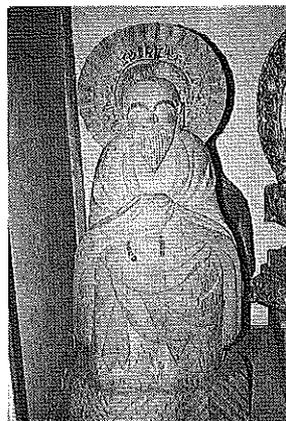
食せず、火によって料理したものを食せず、塩味もとらず、蕎麦粉や木の実などを常食とする修行である。この木喰仏を作られた木喰五行明満仙人は、享保3年(1718)甲斐国の丸畑に生まれ、45才のとき(宝暦12年、1762)「日本廻国修行せんと大願を起して法身すること45歳の年也其節、常陸の国木喰歎海上人の弟子となり、木喰戒を承ぎ、凡40年来の修行なり」と自伝に書いているように、「凡そ日本国々山々嶽々島々」を追って40余年間修行された。61才の年(安永7年、1777)北海道にいたときから造仏をはじめられ、千体の造仏の願をかけられた。清源寺ではじめて見た木喰仏の一番大きい釈迦如来が千体目の彫像であった。

私が見た木喰仏は60体ぐらいであるが、200年前に彫像された千体余りのうち、現在600体ぐらいが確認されている。

木喰上人が全国を遍歴された中で最も長く逗留されたのが日向の国分寺であり、ここには木喰仏の中で最も大きい(261~315)大日如来などが5体残っ



立木子安観音（兵庫県猪名川町東光寺）



（左）自刻像（兵庫県猪名川町毘沙門堂）

（右）自刻像の背面
「天下和順神通光明、明満仙人自刻蔵九十才。日月清明。カセイ大工興清。文化四年四月九日」とある。
文化四年は1807年でロシアの蝦夷襲撃などの時代である。

ている。この地方は明治期の廃仏棄釈が強かったところで、寺は焼かれてしまっているが、木喰仏は近くの民家に避難させられて無事だった。したがって今も大日如来の頭がつかえそうな小さな御堂に収蔵されている。

山口県の木喰仏も多い。木喰上人の足跡は、木喰行というおよそ都会では行えないような行を続けたために、人口の少ない静かなところに多い。また地元でもそれほど有名というわけではないので、一応住所の書かれたリストを持っていても、たどりつくのが大変である。その上、無住寺だったり、極めて大切にしておぼろに納めて厳重に鍵をかけていたり、扱いの落差が大きい。山口県のある寺では、無住寺で鍵を保管している家がわからず、見るのをあきらめかけていたのだが、迷い迷ったすえ寺だけは見つけ「一応場所はわかったぞ!!」と自分に言いかけ、それでもと思って本堂の戸に手をかけてみると、不思議にもスリと動いた。兎にも角にも合掌して

中に入れていただき、拝観し、写真を撮らせていただいた。山口県では秋芳町に多いのだが、それはまだ見ていない。

丹波の八木町から南西へ進むと、能勢（大阪府）を通って猪名川町（兵庫県）へ出る。ここにも立木仏がある。東光寺の立木子安観音は明治初年に落雷によって枯れたので、境内の堂に納められている。他に、本堂には閻魔十王など10体の木喰仏がある。また猪名川町には他にも毘沙門堂などに多数残っている。

最も多く残っているのは新潟県である。生誕地の山梨県の丸畑にも多数残っていたのだが、大正末に柳宗悦によって世に出た頃から売られ、今は全国に広がっている。そのうちの一部が東京駒場の日本民藝館にある。私は民藝館のものしか見ていない。木喰上人の日本全国にわたる行脚の足跡は、柳宗悦の精力的な働きで、凡そ裏づけられている。その道筋はいずれも辺地であって、温泉好きであったことから湯治場に寄ることはあっても、都市に逗留してい

る形跡はない。考えてみると、木喰戒を続けるためには田舎をめぐるしかなく、ほとんど自然を相手の遍歴であった。木喰仏のやさしさは自然との交わりの中で身についた謙虚な日々から出たもので、力強さは「躬の長六尺」で一晩に2体も刻む頑健な身体からきたものであろう。

また回国巡礼に歩み出されたのが45才の時であり、彫像を始められたのが61才、90才で千体仏を成就し、93才まで回国を続けられたのであるから、年令を重ねられた力強さであったと思われる。すでに私は上人の回国を始められた年令を過ぎているが、彫像を始められたときの年にはなっていない。ともすると体力の衰えを気にしはじめるわれわれを、はげましていただいているようである。

(糸乗 貞喜)

活気あるバスターミナルの事例報告

～浜松バスターミナル視察

近年、バス交通の斜陽化が進む中で、行政・事業者が協力して活気を維持する静岡県浜松市のバス交通は特異とも言えます。今回は、その中核である浜松バスターミナルの運営幹事の遠州鉄道株式会社にお邪魔して、バスターミナルについての話を伺いました。

〈浜松バスターミナルの概要〉

浜松バスターミナルは、S57年にJR浜松駅正面に建設されました。以前の浜松市は、JR線が東西に走り、都市内交通のアクセスに問題が多い都市でした。また、駅周辺の市街地も、古い家屋が狭く建ち並び、

狭い路地が入り組み、住みにくい街だったそうです。これを改善すべく、S50年代の国鉄線・遠州鉄道線の高架化計画に併せて浜松市が駅周辺地区土地区画整理事業を実施、バスターミナルもその事業の一環として建設されました。

以下にその概要を簡単に紹介します。

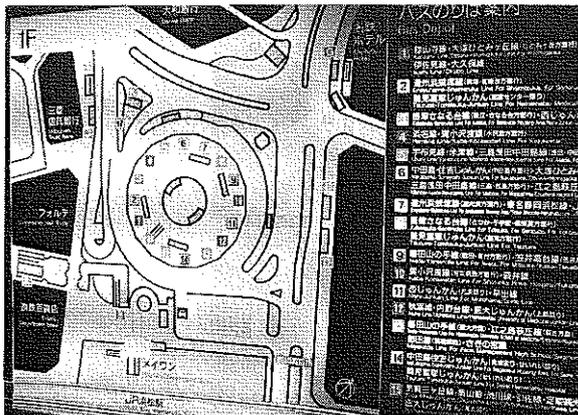
このターミナルは、全体を「バス停の集合体」という扱いにしており、それに応じた設備のみを備えています。通常、駅周辺におけるバスターミナルの立地は、混雑の原因になる可能性が高い。そこで、ターミナルの機能をシンプルにし、必要以上の敷地面積をとらないことで、駅周辺の有効な道路の線形に配慮しています。

16角形状のターミナルの1辺が1バース（乗り場）に相当しますが、バースの割り当てを特定の事業者には決めていません。空いているバースで自由に乗り降りできるシステムは、混んでいるバースを避けることにより、運行時間の節約にもなるそうです。その他にもシンプルな運行を目指す運行システムは顕著です。ターミナル内の左周リ統一、長距離バスの乗り入れ制限、乗換チケットの廃止、全路線の全事業者間の統合、全停留所のロケーションシステム（バスの到着までの待ち時間を知らせる）の設置、等々シンプルを意識したシステムを目指している、ということでした。

〈実際にターミナルに行ってみて〉

お話を伺った後で、実際にバスターミナルを見に行くことにしました。

バスが平面を走っているため、利用者がそこに行くための立体交差は、地下道からの連絡というかたちで行われています。しかし、エスカレーターが設置されており、身障者のためのリフトも設置されて



バスターミナルの案内板、乗り場が16角形状になっている

いるため、不便さは感じられません。

エスカレーターでターミナルに上がると、広々としたオープンスペースが広がっています。一番目につくのは植え込みの深い緑と、のんびりとベンチに座っている人の姿です。ここでは、公園のようにターミナルを使っています。普段、我々が目にするバスターミナルは、薄暗くて、換気が悪くて沈んだ雰囲気漂っていますが、このターミナルは憩いの場として利用できるほど明るい雰囲気でした。

〈浜松バスターミナルを支えるもの〉

浜松バスターミナルの施設面の整備ばかり目につきますが、浜松市とバス事業者の協力が浜松のバス交通の活気を支える大きな要因になっていることも無視できません。

ターミナル整備前は4社乗り入れていた事業者が3社へと統合し、同時に市内の全路線を統合する、という思い切った策が運行のシンプルさに結びつきました。利用者の利便性を重視したため、クローズドア制度の廃止や、優先区間の撤廃等につながりまし

た。そして、利用者から「わかりやすく使いやすいバス交通」という評判を得るに至りました。

浜松駅の周辺は今後、高層建築が続々と完成する予定になっています。バスターミナルからこれらの建設中の建物を眺めていると、55万人の都市が100万都市を目指して器を拵えているように見え、今後もこの都市ではバス交通の需要が増すように思えました。

(尾崎 正利)

小規模炭住地区改良事業による炭住地区整備 — 稲築町・鴨生第一地区 —

当地区は、福岡県は筑豊炭田の一角を担っていた稲築町にあって、三菱鉱業により大正5年に建設された炭住で、昭和36年に閉山し、その後、家屋のみは個人に売却され、当事業が始まるまで個人で改修しながら、生活が営まれていたところでありました。

しかし、築後60数年を経過し、家屋の不良化が著しく、長屋建てであって個人での建替えも思うように進めることができなく、住環境上も劣っていたため、面的な整備が求められていました。

〈小規模であっても約4年を要した事業〉

平成元年に基本構想を立案し、最終的には約4,100㎡、39戸の炭住を対象とした事業化に踏みきり、本年度の8月に事業が完了するに至りました。小規模な事業でありながら、途中、買取価格等で権利者と折り合いがつかず、一時中断したこともありましたが、基本構想から事業完了まで足掛け約4年も経過したことは、権利者の調整がある事業では、通常の新規建設より多くの時間を要することを改めて認識した次第です。



空中庭園から北側住棟を望む

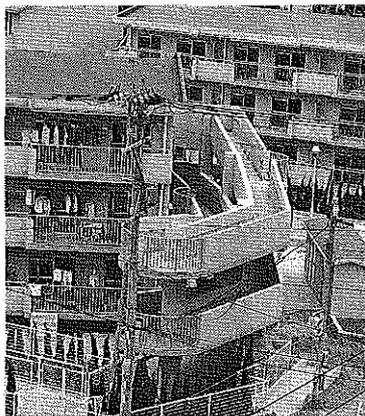
事業化の主な経緯は次のとおりであります。

- ・平成元年度：基本構想立案
- ・平成2年度：事業認可申請提出・受理
- ・平成3年度：第1工区除却・建設（21戸）
- ・平成4年度：第2工区除却・建設（17戸）
- ・平成5年度：屋外整備

〈各住棟をつなぐ空中庭園の提案〉

稲築町においては、これまで数カ所の炭住改良を実施してきましたが、2階建ての実績しかなく、また、当地区は元々住戸密度が約90戸/ha弱と極めて高いものでした。2階建てで計画した場合には共用スペースが少なくなるため、3階建てが提案されましたが、その場合共用スペースを広く確保できること、3階建てを意識しないような計画とすることが条件としてありました。

そこで、2階部分に人工地盤の空中庭園を設け、第1工区と第2工区の4つの住棟を連結しました。この空中庭園が階数に対する意識を和らげ、居住者間のふれあいや交流の場となることを期待するものです。



3階まで続いているスロープ

また、空中庭園下の空間には集会所と併設した形で緑側空間をイメージした板張りの間、イベント広場、児童遊園を設けております。この空間は、当初から限定した使い方をイメージしたのではなく、居住者や地域住民の人々が工夫しながらふれあいの場として様々な使い方（盆踊り、花見等）をしてもらいたいと思って計画したものであります。

さらに、第1工区住棟の一端には3階までの連続スロープを設け、高齢者をはじめ、乳母車・自転車などがスムーズに自分の住戸まで移動できるようにしています。このスロープは2階以上への、階段では運べないような荷物の移動に非常に役立っているようです。

〈高齢者に配慮した住戸計画〉

高齢者に配慮した住戸・住棟計画は、今では当たり前であり、それほど目新しいものはないのですが、当計画における高齢者に配慮した住戸計画としては次のようなことを盛り込んでいます。

- 当地区では高齢者が多く、盆や正月には子供や孫などが帰ってきた時に団らんでできるような広い

空間が欲しいという要望があったことから、和室の続き間タイプを採用している。

- 1階部分は高齢者を優先して入居させるようにしており、そのため1階部分の住居には高齢者の非常時に備え、非常ベルを設置している。
- 浴室は全戸落とし込み浴槽を設置している。
- 玄関、洗面、トイレなど必要な箇所には手摺を設置している。

今後、この改良住宅が当初計画の意図に沿った使われ方をされるのか、あるいはどのように違ってくるのか見届けていきたいと思っています。

最後に、当計画の実施設計を最後まで手伝って戴いた前田設計事務所の前田さんに感謝する次第です。

(山田 龍雄)

本の紹介

次の世代への手紙

「Unknown Excellent Companies
—知られざる優秀企業を訪ねて—」

飯沼和正 児玉浩憲 久野英雄著

「世のなかというのは、本来、不安定なんだと
考えて、その世のなかで、自分はどう生き抜い
てゆこうかと考えるならば、どうしたって自分
のウデをみがいて実力を身につけてゆくことを
優先的に考えざるを得ないだろう」

(本文より)

本文の冒頭にも断られているが、ここで紹介されている「知られざる優秀企業」は、全国に存在するであろう小企業群の優秀企業の中から、ある基準をもって選ばれたソフトウェア企業9社である。

ベンチャー企業は、全国でも一時ブームみたいになつてはやされた時期もあったが、その中には、一儲けをするという感じの会社があったことも、最近の状況からうかがうことができる。



ここで紹介されている企業は、そういうものではなく、たとえば(株)IBC(宮崎県)は、地域を支えている産業を考える農業、科学する農業へ転換していくことを目標としており、地域との密着性、土着性も感じられる。

また、本の最後の部分でも述べられているが、この本に取り上げられている各企業に共通していることは、起業ユニークさは当然のことながら、それぞれの創業者、もしくはグループの人々が、夢を持っているということである。こういうことをやりたい、こ

んな企業にしたいという夢があるからこそ全員が求心力を持って仕事に投入できるという良さがある。また、やる気のある人材が必要な小さい企業は、就社ではなく就職をしたいという人材を必要としており、安定志向ではなくチャレンジ精神の旺盛な人材を求めている。逆にこれらの人材にとっては、企業における個々の責任の大きさは大きな魅力であると思う。

この本の執筆者の一人である飯沼氏は、社会の発展をリードする小さな創造活動部門と、社会の大き

な部分を占める大企業を中心とする生産活動を主とする部門との間にある断絶を埋める部門が、これからの日本社会に必要であることを常々主張している。このことは、前号で紹介したNIRAの研究報告の発想のひとつでもあり、現在、我々が仕事をする上で、常に意識している問題でもある。

(山辺 真一)



【編集後記】 今年は夏らしい夏を味わうことなく秋が到来しそうな気配であり、また長雨で夏休みの予定が思うように出来なかった人も多いのではないかと思います。「よかネットパーティー」をしてはや2ヶ月以上が過ぎ、そろそろ今年度の業務の方も本格的に始動する時期となりました。

前回名簿整理のため、同封の葉書にご記入していただきましたが、また念のため再度葉書の同封を致しておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。なお、前回既にご返送下さった方は結構です。

よかネット NO.5 1993.9

(編集・発行) ㈱九州地域計画研究所
〒810 福岡市中央区天神1-15-1 日之出ビル6F
TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所		
本社 京都事務所	TEL 075-221-5132	FAX 075-256-1764
大阪事務所	TEL 06-942-5732	FAX 06-941-7478
名古屋事務所	TEL 052-962-1224	FAX 052-962-1225
東京事務所	TEL 03-3226-9130	FAX 03-3226-9560
㈱服部メディカル研究所	TEL 03-3465-3147	FAX 03-3465-3146
㈱地域づくりネットワーク	TEL 06-357-2725	FAX 06-357-2740
㈱地域総合プランニング研究所	TEL 092-714-5297	FAX 092-714-5298
㈱未来プラン	TEL 092-722-0220	FAX 092-722-1391